

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成30年2月1日
(第27期) 至 平成31年1月31日

株式会社ユークス

堺市堺区戎島町4丁45番地の1

目次

頁

表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	5
第2 事業の状況	6
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	6
2. 事業等のリスク	7
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	8
4. 経営上の重要な契約等	11
5. 研究開発活動	11
第3 設備の状況	12
1. 設備投資等の概要	12
2. 主要な設備の状況	12
3. 設備の新設、除却等の計画	12
第4 提出会社の状況	13
1. 株式等の状況	13
(1) 株式の総数等	13
(2) 新株予約権等の状況	14
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	14
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	15
(5) 所有者別状況	15
(6) 大株主の状況	16
(7) 議決権の状況	16
2. 自己株式の取得等の状況	17
3. 配当政策	17
4. 株価の推移	18
5. 役員の状況	19
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	20
第5 経理の状況	24
1. 連結財務諸表等	25
(1) 連結財務諸表	25
(2) その他	47
2. 財務諸表等	48
(1) 財務諸表	48
(2) 主な資産及び負債の内容	57
(3) その他	57
第6 提出会社の株式事務の概要	58
第7 提出会社の参考情報	59
1. 提出会社の親会社等の情報	59
2. その他の参考情報	59
第二部 提出会社の保証会社等の情報	60

[監査報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成31年4月25日
【事業年度】	第27期（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）
【会社名】	株式会社ユークス
【英訳名】	YUKE'S Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 谷口 行規
【本店の所在の場所】	堺市堺区戎島町4丁45番地の1
【電話番号】	072（224）5155
【事務連絡者氏名】	常務取締役 品治 康隆
【最寄りの連絡場所】	堺市堺区戎島町4丁45番地の1
【電話番号】	072（224）5155
【事務連絡者氏名】	常務取締役 品治 康隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月	平成27年1月	平成28年1月	平成29年1月	平成30年1月	平成31年1月
売上高 (千円)	4,240,695	5,277,250	3,643,467	3,351,473	3,878,166
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	568,464	1,302,121	121,470	△29,060	351,999
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (△) (千円)	323,072	815,878	54,808	△25,852	219,838
包括利益 (千円)	333,004	819,476	58,632	△18,741	213,465
純資産額 (千円)	3,086,127	3,819,092	3,791,214	3,685,961	3,812,915
総資産額 (千円)	4,300,123	4,969,187	6,697,322	7,459,103	10,310,912
1株当たり純資産額 (円)	356.73	441.46	438.23	426.07	440.74
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	37.34	94.31	6.34	△2.99	25.41
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	71.8	76.9	56.6	49.4	37.0
自己資本利益率 (%)	10.9	23.6	1.4	△0.7	5.9
株価収益率 (倍)	17.41	7.03	205.19	—	20.78
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	527,984	832,107	△261,576	△114,469	619,737
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△68,107	△14,824	△30,477	74,443	△18,582
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△85,775	△86,031	2,064,425	514,650	1,814,153
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,343,345	3,090,058	4,841,853	5,136,701	7,521,702
従業員数 (人)	237	243	258	258	272
(外、平均臨時雇用者数)	(30)	(23)	(20)	(11)	(12)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第23期(平成27年1月期)、第24期(平成28年1月期)、第25期(平成29年1月期)および第27期(平成31年1月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第26期(平成30年1月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第26期(平成30年1月期)の株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月	平成27年1月	平成28年1月	平成29年1月	平成30年1月	平成31年1月
売上高 (千円)	3,623,286	4,796,454	3,247,226	3,067,288	3,315,338
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	220,159	1,086,583	38,726	△71,264	230,035
当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	117,618	670,946	△3,315	△53,154	150,813
資本金 (千円)	412,902	412,902	412,902	412,902	412,902
発行済株式総数 (株)	11,096,000	11,096,000	11,096,000	11,096,000	11,096,000
純資産額 (千円)	2,735,914	3,323,246	3,239,635	3,110,035	3,168,047
総資産額 (千円)	3,756,120	4,350,837	6,065,249	6,794,089	9,343,108
1株当たり純資産額 (円)	316.25	384.14	374.48	359.49	366.20
1株当たり配当額 (円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	13.60	77.56	△0.38	△6.14	17.43
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.8	76.4	53.4	45.8	33.9
自己資本利益率 (%)	4.3	22.1	△0.1	△1.7	4.8
株価収益率 (倍)	47.81	8.55	-	-	30.29
配当性向 (%)	73.5	12.9	-	-	57.4
従業員数 (人)	207	210	220	222	231
(外、平均臨時雇用者数)	(21)	(11)	(8)	(3)	(3)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第23期(平成27年1月期)、第24期(平成28年1月期)および第27期(平成31年1月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第25期(平成29年1月期)および第26期(平成30年1月期)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第25期(平成29年1月期)および第26期(平成30年1月期)の株価収益率および配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

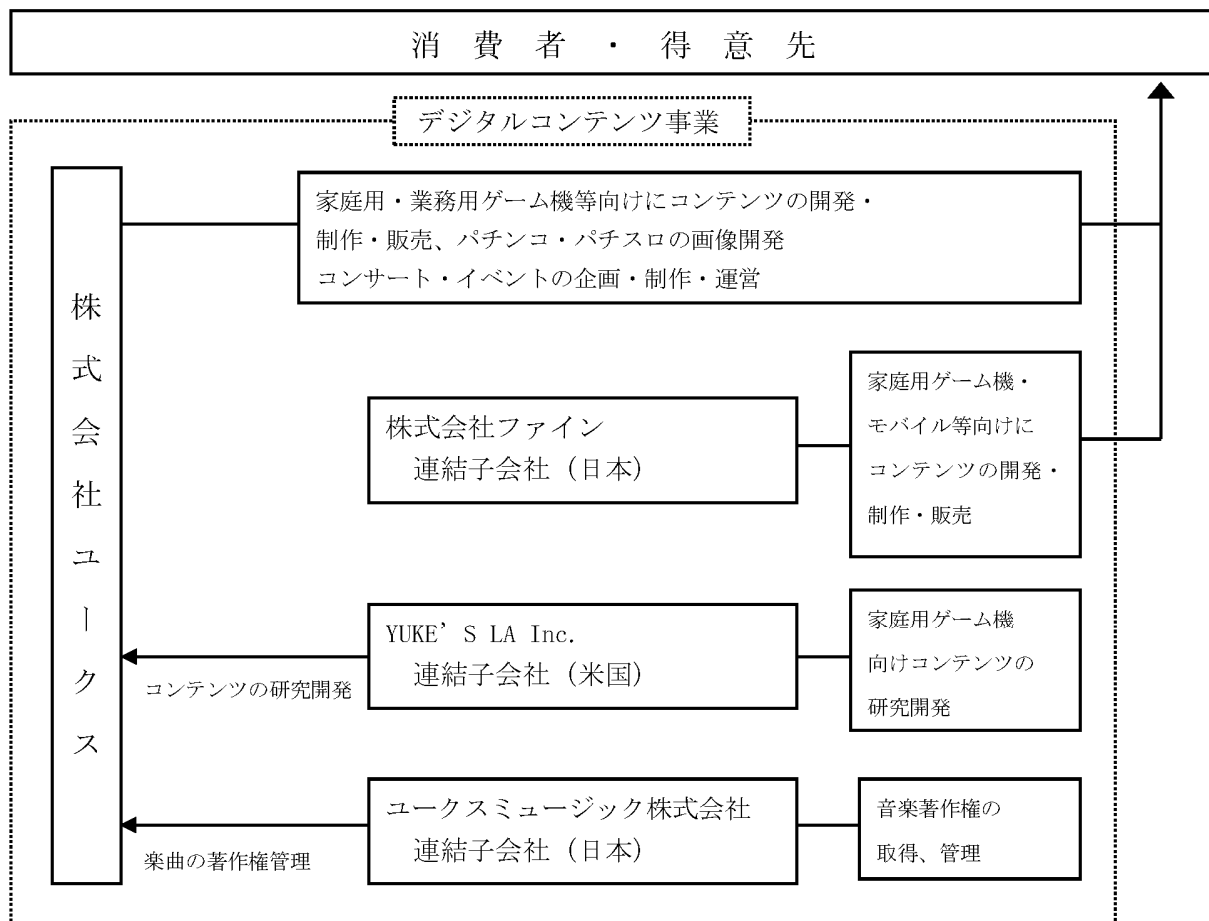
2 【沿革】

年月	事項
平成5年2月	コンピュータソフトウェアの企画、開発、製造および販売を目的として、大阪府堺市に資本金3,000千円でユークス有限会社を設立。
平成8年6月	資本金10,000千円で株式会社ユークスに組織変更。 横浜市神奈川区に横浜開発室を設置。
平成10年2月	株式額面変更のため、株式会社ユークス（形式上の存続会社。旧社名：株式会社オリエンタルドラッグ、本店所在地：大阪府東大阪市。）と合併。 （合併後、被合併会社の営業活動を全面的に継承。事業年度の期数は実質上の存続会社の期数を継承し、平成10年2月1日から始まる事業年度を第7期とする。）
平成11年11月	ネットワーク業務部門を分離し、資本金10,000千円で株式会社ファインを設立。
平成12年1月	THQ Inc. とゲームソフト開発および販売に関する包括契約を締結。 （平成24年12月、米国における連邦破産法第11条を申請したことにより解消） THQ Inc. が当社に出資（出資比率15%）。 （平成25年2月に自己株式として取得）
平成13年12月	大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場に株式を上場。 （現 東京証券取引所JASDAQ市場（スタンダード））
平成17年11月	新日本プロレスリング株式会社の株式51.5%を取得して子会社化。 （平成24年1月にて全株式譲渡。）
平成17年11月	米国カリフォルニア州に現地法人YUKE'S Company of Americaを設立。 （平成18年12月に米国イリノイ州に移転。平成22年7月にて清算終了。）
平成20年3月	株式会社GAOを、株式会社トライファーストに社名変更し、本店住所を堺市堺区から東京都港区へ移転し企業活動を開始。（平成22年1月にて清算終了。）
平成21年9月	米国カリフォルニア州に現地法人YUKE'S LA Inc. を設立。
平成25年2月	2K Sports, Inc.（本社：米国ニューヨーク州）と開発契約書を締結。
平成28年11月	ユークスミュージック株式会社を資本金10,000千円で設立。

3 【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、株式会社ユークス（以下当社という）および子会社3社（YUKE'S LA Inc.、株式会社ファイン、ユークスミュージック株式会社）により構成されており、家庭用ゲーム機、業務用ゲーム機およびモバイル等向けにコンテンツの開発・制作・販売、パチンコ・パチスロの画像開発、コンサート・イベントの企画・制作・運営等を営んでおります。

事業の系統図は、次のとおりです。



4 【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
YUKE'S LA Inc.	米国 カリフォルニア州	10千米ドル	デジタルコンテンツ事業	100.0	コンテンツの研究開発 役員の兼任等・・・有
(株)ファイン	堺市堺区	10,000千円	デジタルコンテンツ事業	100.0	役員の兼任等・・・有
ユークスミュージック(株)	堺市堺区	10,000千円	デジタルコンテンツ事業	100.0	役員の兼任等・・・有

(注) 1. 主要な事業内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. (株)ファインについては、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	572,172千円
	(2) 経常利益	97,706千円
	(3) 当期純利益	51,574千円
	(4) 純資産額	595,366千円
	(5) 総資産額	914,354千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成31年1月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
デジタルコンテンツ事業	272 (12)
合計	272 (12)

(注) 従業員数は、就業人員（契約社員を含む）であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成31年1月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与 (円)
231(3)	35歳6ヶ月	8年11ヶ月	5,662,616

(注) 1. 従業員数は、就業人員（契約社員を含む）であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

3. 従業員は、全てデジタルコンテンツ事業に属しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、「より高い表現力とあたらしい発想で世界中のより多くの人に楽しい遊びと大きな夢と深い感動を提供すること」を目標として掲げております。

上記目標の実現のために、

- ① 既存技術の向上と新技術の研究開発に重点をおき、つねに表現力の向上とあたらしい遊びの提供をすることを目指しております。
- ② 海外における販売や開発に強みを持つ会社と連携することにより、日本人の趣味嗜好にとらわれず、世界中のより多くの人に楽しんでいただける商品を提供する環境を作っております。

(2) 目標とする経営指標

当社は事業展開に際し、高収益体質を目指すために経常利益を増加させることを目標とし、一方で収益性と資本効率を計る尺度としてROE（株主資本当期純利益率）を重視しております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略および会社の対処すべき課題

テクノロジーの進化により、新たな体験をもたらす最新技術を用いたエンタテインメントは、ユーザーにとってより手軽で身近なものとして定着しつつあります。また、多くのユーザーに受け入れられるコンテンツを効率的に開発するために要求される技術力の水準は、年々高まっております。

当社が開発した世界初のARライブシステム「ALiS Zero（アリスゼロ）」は、急速に拡大しつつあるAR市場において、双方向型の次世代ライブを実現するための基幹システムとして国内外から注目が集まりつつあるものの、マネタイズの多様化が急務であると認識しております。今後は、PR活動に力を入れながら、「ALiS Zero」の技術供与や、顧客の様々なニーズに合わせた有効活用を進めてまいります。

受託開発においては、ゲーム開発で長年培ってきた技術力を強みに、安定した収益を確保できるよう、新規クライアントの開拓と、既存クライアントとの関係強化に取り組んでまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当社グループが有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

(1) 為替相場の変動

当社グループは、従来からグローバルな開発・販売活動を展開しており、海外に対する売上高が全売上高に占める割合は非常に高いものとなっております。そのうち外貨建取引については為替相場変動の影響を受けるため、今後の取引状況および為替相場の動向により、当社グループの業績に影響を受ける可能性があります。

(2) 人材確保・育成について

ゲーム業界およびそれを取り巻くエンタテインメント業界の急速な技術革新に迅速に対処し、質の高いゲームソフトを開発・制作するためには、優秀で経験豊富な技術者の確保や柔軟な頭脳をもった新卒者の育成が極めて重要であります。当社グループは、新規採用と中途採用を並行して行い、こういった人材の確保・育成に努めております。しかしながら、当社グループが求める人材の確保ができない場合や育成の効果が十分に引き出せない場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3) 知的財産権について

当社グループが開発・制作・販売・提供および許諾する商品ならびにサービスには、特許権、商標権、著作権、肖像権等多くの知的財産権が関係しております。他者の知的財産権を当社グループの商品ならびにサービスに使用することにあたって行う権利処理、調査および確認には万全を期しておりますが、当社グループがこれらの権利を使用できなくなった場合、または、第三者より保有する知的財産権を侵害したとして訴訟等を提起された場合、許諾料その他の予期せぬ追加費用が発生したり、当該商品への知的財産の使用やサービスの提供ができなくなったりするなど、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(4) 新技術および新型ゲーム機への対応等

家庭用ゲーム機器は高性能化の一途を辿っており、ゲームソフトの開発・制作にかかる期間の長期化とそれに伴う外注費を含めた開発・制作費用の高騰が世界的に進んでおります。そのため、新型ゲーム機への当社の技術対応が遅れた場合や新型ゲーム機の市場浸透が思わしくない場合、ゲームソフト発売時期の大幅な遅れや制作費の回収不能につながる可能性があります。それによって、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(5) 情報の流出

当社グループは、当社が販売する商品や提供するサービスの利用者についての個人情報その他、取引先企業から委託を受けて企画・開発・制作するゲームソフトに関する技術情報や営業に関する情報を機密情報として慎重に扱っております。万一、当社グループの過失や第三者による不正アクセス、コンピュータウイルスによってこれらが流出した場合、利用者から法的責任の追及、または当該企業から損害賠償請求や取引停止の措置を受ける可能性があります。それによって、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(6) 製造物責任

当社グループはキャラクターグッズ等の商品を販売しておりますが、商品に全く欠陥が発生しない保証はありません。当該製品の発売後に重大な欠陥が見つかり、購入者からの返品要求や損害賠償請求、自主回収が発生した場合、予期せぬ費用負担や当社グループの信用低下につながる可能性があります。それによって、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況

①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用状況の改善を背景に、個人消費や設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、非常に緩やかながら戦後最長の景気回復が持続しております。その一方で、国際情勢におきましては、米中両国間における貿易紛争や各種の地政学的リスクにより、不安定さが増しております。

当社グループに関連するエンタテインメント業界では、家庭用ゲーム機「Nintendo Switch」「プレイステーション4」の販売がいずれも好調に推移しております。スマートフォンアプリをはじめとするオンラインゲーム分野におきましては、平成29年に1兆円を超えた市場規模がなお拡大を続けております。また、eスポーツの分野におきましては、国内外で大小様々な規模の大会が行われるなど活況を呈しました。

このような状況のもと、当社グループの受託ソフトにおきましては、主力シリーズの最新作「WWE 2K19」(Xbox One、プレイステーション4用)が平成30年10月より海外にて発売されております。加えまして、3Dアクションシューティングゲーム「EARTH DEFENSE FORCE: IRON RAIN」(プレイステーション4用)が、ディースリー・パブリッシャーより平成31年4月に世界同時発売しております。

パチンコ・パチスロ分野におきましては、3タイトルの画像開発プロジェクトが終了しております。

自社コンテンツの「AR performers」では、AR (Augmented Reality=拡張現実) による最新技術を駆使した本格ライブ「KICK A' LIVE」「KICK A' LIVE2」およびディレクターズカット版の上映会「REWIND3」「REWIND4」「REWIND5」の5つのイベントを開催しております。CD販売では、ミニアルバム「KICK A' LIVE」が平成30年12月にエイベックストラックスより発売されております。また、デジタル声優アイドルグループ「22/7 (ナナブンノニジュウニ)」の「22/7 計算中」および「バーチャルYouTuber 藤間桜 (22/7公式) チャンネル」におきまして、当社の開発したARライブシステム「ALiS Zero (アリスゼロ)」の技術が採用され、制作に携わっております。

以上の結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高は3,878,166千円(前年同期比15.7%増)、営業利益は272,305千円(前年同期比376.8%増)、経常利益は351,999千円(前年同期は経常損失29,060千円)、親会社株主に帰属する当期純利益は219,838千円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失25,852千円)となりました。

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末と比較して2,851,808千円増加し、10,310,912千円となりました。主な要因としては、現金及び預金の増加2,385,000千円、仕掛品の増加375,889千円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比較して2,724,855千円増加し、6,497,997千円となりました。主な要因としては、短期借入金の増加1,900,000千円、前受金の増加709,750千円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比較して126,953千円増加し、3,812,915千円となりました。主な要因としては、親会社株主に帰属する当期純利益219,838千円および剰余金の配当86,511千円によるものであります。

なお、当社グループはデジタルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの業績の記載を省略しております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末より2,385,000千円増加し、7,521,702千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、619,737千円(前年同期は114,469千円の使用)となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益351,999千円、売上債権の増加額182,114千円、たな卸資産の増加額375,574千円、前受金の増加額709,750千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は18,582千円(前年同期は74,443千円の獲得)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出12,994千円、差入保証金の差入による支出6,098千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は1,814,153千円(前年同期は514,650千円の獲得)となりました。

これは主に、短期借入金の増加額1,900,000千円、配当金の支払額85,845千円によるものであります。

③生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループは、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)	前年同期比 (%)
デジタルコンテンツ事業 (千円)	2,718,988	123.5
合計 (千円)	2,718,988	123.5

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当社グループは、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の受注実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
デジタルコンテンツ事業 (千円)	2,631,991	52.2	1,853,275	65.6
合計 (千円)	2,631,991	52.2	1,853,275	65.6

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 上記受注高は、「業務委託契約」による開発受託金額のみを記載しております。

販売本数に応じて当社グループが受取るロイヤリティ収入は、受注時に未確定であるため、上記受注高には含めておりません。

c. 販売実績

当社グループは、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)	前年同期比 (%)
デジタルコンテンツ事業 (千円)	3,878,166	115.7
合計 (千円)	3,878,166	115.7

(注) 1. 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
2K Sports, Inc.	2,091,128	62.4	2,164,085	55.8
㈱バンダイナムコエンター テインメント	279,154	8.3	358,593	9.2
㈱SANKYO	438,400	13.1	341,957	8.8

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

①重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準にもとづき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたり、当社グループが採用している重要な会計方針は、第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項に記載のとおりであります。なお、連結財務諸表には、将来に対する見積り等が含まれておりますが、これらは、有価証券報告書提出日現在における当社グループの判断によるものであります。このような将来に対する見積り等は、現在入手可能な前提にもとづく合理的な見積りを反映させておりますが、将来、これらの見積りと大きな差を生じる可能性があります。

②当連結会計年度の経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度の売上高は、3,878,166千円（前年同期比15.7% 526,693千円増加）となりました。主な要因は、AR関連プロジェクト、およびモバイルコンテンツ分野における受託案件が増加したことによるものであります。

(営業利益)

当連結会計年度の売上原価は、2,733,416千円（前年同期比21.6% 485,460千円増加）、販売費及び一般管理費は、872,444千円（前年同期比16.6% 173,962千円減少）となりました。以上の結果、営業利益は、272,305千円（前年同期比376.8% 215,194千円増加）となりました。

(経常利益)

当連結会計年度における営業外収益は、主に受取利息の増加、受取保険金の減少により、129,392千円（前年同期比31.5% 31,012千円増加）となりました。営業外費用は、主に為替差損の減少により、49,698千円（前年同期比73.1% 134,852千円減少）となりました。以上の結果、経常利益は、351,999千円（前年同期は経常損失29,060千円）となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、219,838千円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失25,852千円）となりました。

③当連結会計年度の財政状態の分析

(総資産)

当連結会計年度末の総資産は、10,310,912千円（前年同期比38.2% 2,851,808千円増加）となりました。主な要因は、現金及び預金の増加2,385,000千円、仕掛品の増加375,889千円によるものであります。

(負債合計)

当連結会計年度末の負債合計は、6,497,997千円（前年同期比72.2% 2,724,855千円増加）となりました。主な要因は、短期借入金の増加1,900,000千円、前受金の増加709,750千円によるものであります。

(純資産合計)

当連結会計年度末の純資産は、3,812,915千円（前年同期比3.4% 126,953千円増加）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益219,838千円および剰余金の配当86,511千円によるものであります。

4 【経営上の重要な契約等】

当社は、取引先である2K Sports, Inc.（本社：米国ニューヨーク州）と「ソースコードライセンス契約書（平成30年9月7日締結）」を締結しております。なお、2K Sports, Inc. は米国ナスダック市場に株式を上場しておりますTake-Two Interactive Software, Inc. の販売専門の完全子会社です。

契約の当事者、内容および契約期間は以下のとおりであります。

ソースコードライセンス契約書（平成30年9月7日締結）

当事者：2K Sports, Inc. および当社

内容：当社は、2K Sports, Inc. に対して、当社保有の対象ソフトウェア（ゲームおよびツールのソースコード）について、全世界を対象にしたライセンスを許諾する。

契約期間：平成30年9月7日から複数年

5 【研究開発活動】

当社グループでは、従来行ってきたゲームソフト開発についての研究開発活動に加え、AR（拡張現実）を中心とした最先端技術についての研究開発活動に日々積極的に取り組んでおります。

その成果として、当社の「AR performers」におきまして、コンピュータにより作り出されたCG（コンピュータグラフィックス）のようなデジタル情報と、声や動きといったアナログ情報とをAR技術で重ね合わせることによって、機器を介さずに仮想のキャラクターの存在を体感することができるライブイベントを自ら開催しているほか、ARライブシステム「ALiS Zero（アリスゼロ）」として他社への提供を行っております。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、184,445千円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社および連結子会社）では、高品質で新しい製品開発のためデジタルコンテンツ事業に15,658千円の設備投資を実施いたしました。

デジタルコンテンツ事業の主要な投資としては、開発環境の整備および維持のため、開発用機材およびソフトウェアの購入4,605千円であります。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成31年1月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	ソフト ウェア (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (堺市堺区) (注2)	デジタルコンテンツ 事業	ソフトウェア 開発設備等	13,697	2,514 (20.34)	4,127	8,872	29,212	81
横浜開発室 (横浜市神奈川区) (注3)	デジタルコンテンツ 事業	ソフトウェア 開発設備等	6,726	-	7,549	6,568	20,844	150

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、「車両運搬具」、「工具、器具及び備品」の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
2. 建物を賃借しており、年間賃借料は63,560千円であります。
3. 建物を賃借しており、年間賃借料は150,977千円であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在において、新たに確定した重要な設備の新設および除却等はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	44,360,000
計	44,360,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成31年1月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成31年4月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,096,000	11,096,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,096,000	11,096,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

平成27年4月28日開催の定時株主総会において決議されたもの

当該制度は、会社法第361条に基づき当社の取締役および監査役に対し、株式報酬型ストックオプションとして新株予約権を取締役および監査役の報酬額とは別枠で割り当てることを、平成27年4月28日開催の定時総会において決議されたものであり、その内容は次のとおりであります。

決議年月日	平成27年4月28日
付与対象者の区分及び人数（名）	当社取締役 4 当社監査役 3
新株予約権の目的となる株式の種類	当社普通株式
株式の数（株）	各事業年度において、取締役については7,200個（うち社外取締役については2,400個）、監査役については3,600個を新株予約権の数の上限とする。 なお、新株予約権1個当たりの目的となる株式の数は100株とする。
新株予約権の行使時の払込金額（円）	新株予約権と引き換えに金銭の払込みを要しないものとする。（注）
新株予約権の行使期間	新株予約権の付与決議日の翌日から2年を経過した日より10年間とする。
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時においても、当社の取締役および監査役その他これに準ずる地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任その他これに準ずる正当な理由のある場合はこの限りでない。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡により新株予約権を取得するときは、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	当社が合併、募集株式の発行、会社分割、株式分割または株式併合等を行うことにより、株式数の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

(注) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下、「行使価額」という）に当該新株予約権に係る株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、新株予約権の割当日の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く）における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値の平均値に1.01を乗じた価額とし、これにより生じた1円未満の端数はこれを切り上げる。ただし、その価額が新株予約権の割当日の前日の終値（終値がない場合は、その日に先立つ直近日における終値）を下回る場合は、当該終値とする。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成17年2月1日～ 平成18年1月31日 (注)	—	11,096,000	—	412,902	819	423,708

(注) 第3回無担保新株引受権付社債の新株引受権の権利行使
行使価格 342円 資本組入額 一円

(5) 【所有者別状況】

平成31年1月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	1	24	45	15	7	7,936	8,028	—
所有株式数 (単元)	—	46	1,918	31,235	564	34	77,147	110,944	1,600
所有株式数の 割合(%)	—	0.04	1.73	28.15	0.51	0.03	69.54	100	—

(注) 自己株式2,444,872株は、「個人その他」に24,448単元および「単元未満株式の状況」に72株を含めて記載して
おります。

(6) 【大株主の状況】

平成31年1月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社トラッド	大阪府岸和田市別所町3-15-15	2,600	30.05
谷口 行規	東京都港区	1,231	14.23
サミー株式会社	東京都品川区西品川1-1-1	500	5.78
ユークス従業員持株会	堺市堺区戎島町4-45-1	297	3.44
品治 康隆	大阪市阿倍野区	254	2.94
橋木 孝志	大阪府大阪狭山市	165	1.92
石黒 嘉之	千葉県富里市	110	1.27
原 典史	横浜市西区	96	1.11
山中 樹生	高知県高岡郡	63	0.74
北口 徳一	横浜市神奈川区	48	0.55
計	—	5,367	62.04

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成31年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,444,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,649,600	86,496	—
単元未満株式	普通株式 1,600	—	—
発行済株式総数	11,096,000	—	—
総株主の議決権	—	86,496	—

② 【自己株式等】

平成31年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社ユークス	堺市堺区戎島町 4-45-1	2,444,800	—	2,444,800	22.03
計	—	2,444,800	—	2,444,800	22.03

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	1	572
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成31年4月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,444,872	—	2,444,872	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成31年4月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

利益配分に関する基本方針

当社は、株主還元を経営の重要課題と認識しております。株主の皆様への利益配分に関しましては、デジタルコンテンツ分野の事業展開と経営体質の強化に必要な内部留保資金の確保を図りつつ、各期の経営成績を勘案し、安定した配当を行っていくことを当面の基本方針としております。なお、当社は、期末配当金として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、その決定機関は株主総会であります。

当期の期末配当金につきましては、平成31年4月25日開催の定時株主総会決議を経て1株当たり普通配当10円とさせていただきます。

当社は、会社法第454条第5項に規定する取締役会の決議をもって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当連結会計年度は中間配当についての取締役会決議を行っておりません。

(注) 基準日が当期に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成31年4月25日 定時株主総会決議	86,511	10

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第23期	第24期	第25期	第26期	第27期
決算年月	平成27年1月	平成28年1月	平成29年1月	平成30年1月	平成31年1月
最高(円)	1,259	895	1,527	1,438	858
最低(円)	385	486	426	587	361

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年8月	9月	10月	11月	12月	平成31年1月
最高(円)	858	746	625	550	620	645
最低(円)	504	589	492	501	361	424

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性5名 女性1名 (役員のうち女性の比率16.7%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		谷口 行規	昭和43年9月27日生	平成5年2月 ユークス有限会社代表取締役社長 平成8年6月 株式会社ユークスへ組織変更 当社代表取締役社長 (現任) 平成11年11月 株式会社ファイン代表取締役会長 (現任)	(注) 2	1,231
常務取締役	管理部長	品治 康隆	昭和41年1月31日生	平成元年4月 野村證券株式会社入社 平成8年12月 当社入社 管理部長 (現任) 平成9年2月 当社取締役 平成11年4月 当社常務取締役 (現任) 平成11年11月 株式会社ファイン取締役 (現任) 平成18年4月 新日本プロレスリング株式会社 取締役	(注) 2	254
取締役	システム担当	橋木 孝志	昭和41年11月17日生	平成3年4月 株式会社CSK入社 (現:SCSK株式会社) 平成9年1月 当社入社 平成9年2月 当社取締役 平成11年11月 株式会社ファイン代表取締役社長 (現任) 平成24年4月 当社取締役 システム担当(現任)	(注) 2	165
監査役		前川 健	昭和41年11月24日生	平成7年4月 公認会計士登録 平成11年4月 当社監査役 平成19年5月 前川健公認会計士事務所所長 (現任) 平成21年4月 当社監査役(常勤) (現任)	(注) 3	3
監査役		上田 耕治	昭和37年3月8日生	平成8年4月 公認会計士登録 平成18年7月 ネクサス監査法人代表社員(現任) 平成19年4月 当社監査役(現任) 平成22年4月 関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科教授(現任) 平成27年6月 中国塗料株式会社取締役(現任)	(注) 4	2
監査役		稲津 喜久代	昭和45年2月21日生	平成7年12月 司法書士登録 平成15年8月 あおぞら司法書士法務 総合事務所創立(現任) 平成22年4月 当社監査役(現任)	(注) 5	2
計						1,659

(注) 1. 監査役 上田耕治および稲津喜久代は、社外監査役であります。

2. 平成31年4月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成29年4月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成31年4月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成30年4月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しており
ます。執行役員は5名で構成されております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1. コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主、消費者、取引先、従業員および地域社会といったステークホルダーから信頼され、リスク管理およびコンプライアンスに留意しつつ企業価値を最大化することがステークホルダーに対して当社が果たすべき義務であると位置づけております。それを実現するための施策として、コーポレート・ガバナンスを下支えする全社的な内部統制システムを有効に機能させ、その実効性を確保することが、公平性・透明性の高い効率的な経営を行ううえで重要であることを認識しております。

2. 企業統治の体制の概要および当該体制を採用する理由

当社は、事業規模に鑑み、少人数の取締役が迅速な経営判断を行い、取締役および執行役員が業務を執行し、その結果を過半数が独立性を有する社外監査役である各監査役が中立の立場から監督・監視することにより、適切かつ効率的な意思決定プロセスを担保できると考えたため、以下の体制を採用しております。

会社の機関の内容

<取締役会>

当社の取締役会は3名で構成され、情報の共有および緊密な意思疎通を図りつつ、取締役会規程に従って、監査役出席のもとで業務執行状況の監督および当社の経営方針をはじめとした重要事項に関して審議し意思決定を行っております。取締役会は毎月1回の定期開催に加え、必要に応じて臨時取締役会を開催しており、エンタテインメント業界における経営課題に速やかに対応し競争力を高めるために、機動的に意思決定を行う体制を整えております。

<監査役会>

当社の監査役会はいずれも独立役員である社外監査役2名を含む3名で構成され、取締役会等の重要な会議への出席および意見陳述、稟議書等の重要な書類の閲覧および財産状況の調査を通じて取締役および執行役員による業務執行に対する評価・検証を行うことにより、コーポレート・ガバナンスの実効性を担保する役割を担っております。各監査役は監査役会が定める監査方針および監査計画にもとづき、監査役間で幅広く情報交換を行い監査の精度向上に努めつつ、会計監査人および内部監査室との間においても適宜連携を取り、監査を行っております。また、会計監査人による会計監査に対しましては、監査の方法および結果の相当性について監視および検証をしております。

<リスク管理委員会>

当社は、リスク管理規程にもとづき、代表取締役を委員長とするリスク管理委員会を設置し、毎月1回の定例委員会のほか、必要が生じた場合には臨時委員会を開いております。委員会の業務としては、経営リスクのモニタリング、リスク管理体制の構築およびリスク防止策の運用等を行うことを通じて、企業活動の持続的発展を脅かすリスクの早期発見と未然防止に努めております。

<コンプライアンス委員会>

当社は、コンプライアンス規程にもとづき、コンプライアンス担当取締役を委員長とするコンプライアンス委員会を設置しております。委員会の業務としては、業務プロセス・規程の整備、評価・監視体制の維持・強化を図るとともに、総務・法務各担当が中心となり、法令および社内規則の遵守を徹底させるための社内啓蒙活動を人事研修等で行い、コンプライアンス体制の維持・改善を図っております。また、社員より法令違反となる可能性のある行為について通報を受けた場合は、事実関係を調査の上で当該行為を行っている部門に対して中止命令措置を講じることと併せて、原因の究明と再発防止策の検討を行います。

3. 監査役監査および内部監査

監査役監査につきましては、監査役会の作成した監査方針および監査計画にもとづき業務監査・会計監査を実施するとともに重要な連結子会社からは必要に応じて報告を受け調査を実施しております。監査役は、内部監査室および会計監査人との間で調査結果の報告、監査計画の協議・調整、緊密な情報や意見の交換等を行い連携を深めることにより、効率的に三様監査を行っております。また、監査役である前川健氏および上田耕治氏は公認会計士として企業会計に精通しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査につきましては、社長直属の内部監査室に1名を配置し、あらかじめ作成し社長が承認した監査方針・基本計画にのっとり、業務が適正かつ法令および諸規程にもとづいて遂行されているかどうかについて、連結子会社を含め各部門に対する監査を通じて内部統制の実施状況を把握しております。監査の結果、指摘事項・改善点・提案等があった場合には適宜助言・指導を行い、必要と判断した場合には改善報告書の提出を求めることにより、監査の実効性を確保し内部管理体制の継続的な改善に努めております。

4. 社外取締役および社外監査役

当社の社外監査役である上田耕治氏および稲津喜久代氏の間には、特別な人的関係、資金的関係または取引関係その他の利害関係はありません。また、当社と両氏との間でそれぞれ責任限定契約を締結しております。

なお、社外監査役の当社株式の所有状況は、「5 役員の状況」に記載のとおりであります。

社外監査役は取締役会および監査役会に出席し、それぞれの専門分野における豊富な経験を通じて培われた見識をもって独立した立場から発言を行っており、当該発言により社外の視点を経営および監査に取り入れ、取締役の意思決定に客観性や中立性を確保することができるものと考えます。

社外役員の選定にあたっては、当社からの独立性に関する基準または方針を当社は定めておりませんが、当社経営陣からの独立性、専門分野における経歴等を総合的に勘案し、東京証券取引所の定める独立役員の基準等を参考にして一般株主との利益相反を生じる恐れがないものと判断しております。なお、当社は、社外監査役全員（2名）を東京証券取引所の定める独立役員として、同取引所に届け出ております。

社外役員と内部統制の関係につきましては、取締役会や監査役会等における情報交換および必要に応じてなされる専門的見地に立った助言・指導を通じて、独立した客観的な立場から適切な監督・監視を行うことにより、内部統制の実効性を高める役割を担っております。

なお、当社は、平成27年4月28日に開催された第23期定時株主総会において選任された取締役 市村和雄氏を社外取締役としておりましたが、同氏は平成29年2月22日に逝去し、退任いたしました。その後、当社は、適切な社外取締役の人選に努めてまいりましたが、現時点では決定に至っておりません。今後は当社が属する業界事情に通じ企業価値向上への貢献を十分に期待できる人材の探索に努め、適任者が見つかり次第、社外取締役として招聘したいと考えております。

<責任限定契約の内容の概要>

当社と監査役は、会社法第427条第1項の規定にもとづき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約にもとづく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

5. 役員報酬の内容

①役員報酬の内容

区 分	報酬等の総額 (千円)	基本報酬 (千円)	対象となる 役員の員数(名)
取 締 役 (社外取締役を除く)	128,160	128,160	3
監 査 役 (社外監査役を除く)	8,400	8,400	1
社 外 役 員	7,200	7,200	2

②役員報酬等の決定方針等

当社は、役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

6. 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

7. 株式の保有状況

①保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 10銘柄

貸借対照表計上額の合計額 66,511千円

②保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱紀陽銀行	14,800	26,876	取引関係等の円滑化のため
㈱エヌ・ティ・ティ ・データ	15,000	19,245	取引関係等の円滑化のため
ソニー㈱	3,200	16,668	取引関係等の円滑化のため
任天堂㈱	100	4,797	取引関係等の円滑化のため
SAMURAI&J PARTNERS㈱	500	1,725	取引関係等の円滑化のため
㈱ベクター	3,000	1,374	取引関係等の円滑化のため
㈱スクウェア・エニックス ・ホールディングス	127	631	取引関係等の円滑化のため
コナミホールディングス㈱	100	624	取引関係等の円滑化のため
㈱ラウンドワン	200	404	取引関係等の円滑化のため
セガサミーホールディン グス㈱	56	85	取引関係等の円滑化のため

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
㈱紀陽銀行	14,800	23,191	取引関係等の円滑化のため
㈱エヌ・ティ・ティ ・データ	15,000	19,440	取引関係等の円滑化のため
ソニー㈱	3,200	17,494	取引関係等の円滑化のため
任天堂㈱	100	3,383	取引関係等の円滑化のため
㈱ベクター	3,000	966	取引関係等の円滑化のため
SAMURAI&J PARTNERS㈱	5,000	745	取引関係等の円滑化のため
コナミホールディングス㈱	100	501	取引関係等の円滑化のため
㈱スクウェア・エニックス ・ホールディングス	127	457	取引関係等の円滑化のため
㈱ラウンドワン	200	247	取引関係等の円滑化のため
セガサミーホールディン グス㈱	56	85	取引関係等の円滑化のため

8. 会計監査の状況

当社は、会計監査人として有限責任監査法人トーマツを起用しております。当社の会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名、および継続監査年数

指定有限責任社員 業務執行社員 松尾 雅芳

指定有限責任社員 業務執行社員 矢倉 幸裕

(注) 継続監査年数については7年を超えないため記載を省略しております。

- ・会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名 その他 8名

9. 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

①自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を実行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

②中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議をもって、毎年7月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当金として剰余金の配当を行うことができる旨定款に定めております。

③取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の責任を、法令の限度において、取締役会の決議をもって免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

10. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

11. 取締役の選任決議の要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

①【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	16,500	—	17,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	16,500	—	17,000	—

②【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、当社の規模・業務の特性・監査内容・監査日数を勘案した上で定めております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）にもとづいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）にもとづいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、連結会計年度（平成30年2月1日から平成31年1月31日まで）の連結財務諸表および事業年度（平成30年2月1日から平成31年1月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報の入手等に努めております。

また、公益財団法人財務会計基準機構等の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,136,701	7,521,702
売掛金	304,968	487,083
商品	5,832	5,517
仕掛品	907,004	※2 1,282,894
繰延税金資産	41,566	59,812
その他	134,314	69,827
貸倒引当金	△41	△11
流動資産合計	6,530,347	9,426,825
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	138,843	139,346
減価償却累計額	△110,963	△114,971
建物及び構築物 (純額)	27,879	24,374
土地	2,514	2,514
その他	491,872	501,979
減価償却累計額	△467,489	△482,381
その他 (純額)	24,383	19,598
有形固定資産合計	54,777	46,488
無形固定資産		
ソフトウェア	17,213	11,893
その他	1,242	1,242
無形固定資産合計	18,455	13,135
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 272,366	※1 265,269
長期貸付金	2,331	1,676
繰延税金資産	266,106	219,563
その他	314,720	339,164
貸倒引当金	-	△1,209
投資その他の資産合計	855,523	824,463
固定資産合計	928,756	884,087
資産合計	7,459,103	10,310,912

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63	597
短期借入金	2,750,000	4,650,000
未払金	292,250	317,634
未払法人税等	27,134	87,921
前受金	454,746	1,164,496
預り金	1,782	3,754
賞与引当金	98,678	108,035
その他	3,373	8,526
流動負債合計	3,628,029	6,340,967
固定負債		
長期末払金	62,200	62,200
退職給付に係る負債	82,663	94,579
その他	250	250
固定負債合計	145,113	157,029
負債合計	3,773,142	6,497,997
純資産の部		
株主資本		
資本金	412,902	412,902
資本剰余金	432,218	432,218
利益剰余金	3,545,239	3,678,567
自己株式	△738,303	△738,303
株主資本合計	3,652,056	3,785,383
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32,518	26,228
為替換算調整勘定	1,386	1,303
その他の包括利益累計額合計	33,905	27,531
純資産合計	3,685,961	3,812,915
負債純資産合計	7,459,103	10,310,912

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
売上高	3,351,473	3,878,166
売上原価	2,247,956	2,733,416
売上総利益	1,103,517	1,144,749
販売費及び一般管理費	※1,※2 1,046,406	※1,※2 872,444
営業利益	57,110	272,305
営業外収益		
受取利息	56,594	123,914
受取配当金	1,596	1,093
受取保険金	34,194	-
その他	5,995	4,385
営業外収益合計	98,380	129,392
営業外費用		
支払利息	1,711	3,770
為替差損	182,508	45,926
その他	331	2
営業外費用合計	184,551	49,698
経常利益又は経常損失(△)	△29,060	351,999
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△29,060	351,999
法人税、住民税及び事業税	36,941	101,130
法人税等調整額	△40,150	31,031
法人税等合計	△3,208	132,161
当期純利益又は当期純損失(△)	△25,852	219,838
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△25,852	219,838

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
当期純利益又は当期純損失(△)	△25,852	219,838
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10,066	△6,289
為替換算調整勘定	△2,955	△83
その他の包括利益合計	※ 7,110	※ △6,373
包括利益	△18,741	213,465
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△18,741	213,465
非支配株主に係る包括利益	-	-

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	412,902	432,218	3,657,603	△738,303	3,764,420
当期変動額					
剰余金の配当			△86,511		△86,511
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△25,852		△25,852
自己株式の取得				-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	△112,363	-	△112,363
当期末残高	412,902	432,218	3,545,239	△738,303	3,652,056

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	22,452	4,341	26,794	3,791,214
当期変動額				
剰余金の配当				△86,511
親会社株主に帰属する当期純損失（△）				△25,852
自己株式の取得				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	10,066	△2,955	7,110	7,110
当期変動額合計	10,066	△2,955	7,110	△105,252
当期末残高	32,518	1,386	33,905	3,685,961

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	412,902	432,218	3,545,239	△738,303	3,652,056
当期変動額					
剰余金の配当			△86,511		△86,511
親会社株主に帰属する当期純利益			219,838		219,838
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	133,327	△0	133,326
当期末残高	412,902	432,218	3,678,567	△738,303	3,785,383

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	32,518	1,386	33,905	3,685,961
当期変動額				
剰余金の配当				△86,511
親会社株主に帰属する当期純利益				219,838
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,289	△83	△6,373	△6,373
当期変動額合計	△6,289	△83	△6,373	126,953
当期末残高	26,228	1,303	27,531	3,812,915

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△29,060	351,999
減価償却費	31,721	29,573
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	8,472	11,916
賞与引当金の増減額(△は減少)	7,915	9,354
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△142	1,179
受取利息及び受取配当金	△58,190	△125,007
支払利息	1,711	3,770
為替差損益(△は益)	176,918	30,205
売上債権の増減額(△は増加)	△30,363	△182,114
たな卸資産の増減額(△は増加)	△527,316	△375,574
未払金の増減額(△は減少)	11,374	24,795
前受金の増減額(△は減少)	271,113	709,750
その他	20,891	51,418
小計	△114,954	541,265
利息及び配当金の受取額	57,640	123,080
利息の支払額	△1,784	△3,927
法人税等の支払額	△66,562	△42,575
法人税等の還付額	11,191	1,895
営業活動によるキャッシュ・フロー	△114,469	619,737
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△17,158	△12,994
無形固定資産の取得による支出	△1,734	△2,093
長期貸付金の回収による収入	656	667
短期貸付けによる支出	△280	-
短期貸付金の回収による収入	155	125
投資有価証券の償還による収入	100,000	-
差入保証金の回収による収入	24,492	1,812
差入保証金の差入による支出	△31,687	△6,098
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,443	△18,582
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	600,000	1,900,000
自己株式の取得による支出	-	△0
配当金の支払額	△85,349	△85,845
財務活動によるキャッシュ・フロー	514,650	1,814,153
現金及び現金同等物に係る換算差額	△179,776	△30,308
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	294,848	2,385,000
現金及び現金同等物の期首残高	4,841,853	5,136,701
現金及び現金同等物の期末残高	※ 5,136,701	※ 7,521,702

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社

連結子会社名

(株)ファイン

YUKE'S LA Inc.

ユークスミュージック(株)

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない関連会社1社は、当期純損益および利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等にもとづく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

②棚卸資産

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法)によっております。

商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法)によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産

当社および国内連結子会社は定率法によっております。

在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物

8～15年

②無形固定資産

ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、支給見込額にもとづき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社グループは、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る売上高及び売上原価の計上基準

① 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる受注契約
進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）

② その他の受注契約
検収基準

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、当連結会計年度末における直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産および負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

令和5年1月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり
ます。

(連結貸借対照表関係)

※1. 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
投資有価証券(株式)	980千円	980千円

※2. 損失が見込まれる受注制作のソフトウェアに係る仕掛品は、これに対応する以下の受注損失引当金を相殺表示しております。

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
仕掛品	－千円	83,562千円

(連結損益計算書関係)

※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
役員報酬	168,120千円	167,760千円
給料手当	96,895	94,734
賞与引当金繰入額	5,943	8,406
退職給付費用	415	944
広告宣伝費	43,903	57,858
研究開発費	388,098	184,445

※2. 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
	388,098千円	184,445千円

(連結包括利益計算書関係)

※その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	14,442千円	△9,024千円
税効果調整前	14,442	△9,024
税効果額	△4,376	2,734
その他有価証券評価差額金	10,066	△6,289
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△2,955	△83
為替換算調整勘定	△2,955	△83
その他の包括利益合計	7,110	△6,373

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成29年2月1日至平成30年1月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	11,096	—	—	11,096
合計	11,096	—	—	11,096
自己株式				
普通株式	2,444	—	—	2,444
合計	2,444	—	—	2,444

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成29年4月27日 定時株主総会	普通株式	86,511	10	平成29年1月31日	平成29年4月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年4月26日 定時株主総会	普通株式	86,511	利益剰余金	10	平成30年1月31日	平成30年4月27日

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	11,096	—	—	11,096
合計	11,096	—	—	11,096
自己株式				
普通株式	2,444	0	—	2,444
合計	2,444	0	—	2,444

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成30年4月26日 定時株主総会	普通株式	86,511	10	平成30年1月31日	平成30年4月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成31年4月25日 定時株主総会	普通株式	86,511	利益剰余金	10	平成31年1月31日	平成31年4月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成29年 2月 1日 至 平成30年 1月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 2月 1日 至 平成31年 1月31日)
現金及び預金勘定	5,136,701千円	7,521,702千円
現金及び現金同等物	5,136,701	7,521,702

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(1) リース投資資産の内訳

① 流動資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年 1月31日)	当連結会計年度 (平成31年 1月31日)
リース料債権部分	2,602	—
見積残存価額部分	—	—
受取利息相当額	△26	—
リース投資資産	2,575	—

(2) リース債権及びリース投資資産に係るリース料債権部分の連結決算日後の回収予定額

① 流動資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年 1月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債権	—	—	—	—	—	—
リース投資資産	2,602	—	—	—	—	—

(単位：千円)

	当連結会計年度 (平成31年 1月31日)					
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債権	—	—	—	—	—	—
リース投資資産	—	—	—	—	—	—

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、流動性の高い預金等の金融資産で運用しております。また、資金調達については、主に銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

外貨建預金については、為替の変動リスクに晒されております。

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、輸出取引によって生じる外貨建営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に株式や満期保有目的の債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に運転資金に係る資金調達を目的としたものであります。

長期未払金は、主に役員退職慰労金の打切り支給に係る債務であり、当該役員の退職時に支給する予定であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況等を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

適時に資金繰計画を作成・更新するなどにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格にもとづく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成30年1月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	5,136,701	5,136,701	—
(2) 売掛金	304,968	304,968	—
(3) 投資有価証券	271,386	311,388	40,002
資産計	5,713,056	5,753,058	40,002
(1) 短期借入金	2,750,000	2,750,000	—
(2) 未払金	292,250	292,250	—
(3) 未払法人税等	27,134	27,134	—
負債計	3,069,384	3,069,384	—

当連結会計年度（平成31年1月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	7,521,702	7,521,702	—
(2) 売掛金	487,083	487,083	—
(3) 投資有価証券	264,289	299,544	35,255
資産計	8,273,074	8,308,329	35,255
(1) 短期借入金	4,650,000	4,650,000	—
(2) 未払金	317,634	317,634	—
(3) 未払法人税等	87,921	87,921	—
負債計	5,055,556	5,055,556	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価については、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 短期借入金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
投資有価証券	980	980
長期未払金	62,200	62,200

投資有価証券については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積ることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

長期未払金については、役員退職慰労金の打切り支給に係る債務であり、当該役員の退職時期が特定されておらず時価の算定が困難なため、記載しておりません。

3. 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成30年1月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,136,701	—	—	—
売掛金	304,968	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
その他	—	—	200,000	—
合計	5,441,670	—	200,000	—

当連結会計年度（平成31年1月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,521,702	—	—	—
売掛金	487,083	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
その他	—	—	200,000	—
合計	8,008,785	—	200,000	—

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度 (平成30年1月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	その他	185,065	225,068	40,002
	小計	185,065	225,068	40,002
合計		185,065	225,068	40,002

当連結会計年度 (平成31年1月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	その他	186,992	222,248	35,255
	小計	186,992	222,248	35,255
合計		186,992	222,248	35,255

2. その他有価証券

前連結会計年度 (平成30年1月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	72,432	34,801	37,631
	(2) その他	13,888	4,864	9,024
	小計	86,320	39,665	46,655
合計		86,320	39,665	46,655

当連結会計年度 (平成31年1月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	66,511	34,801	31,709
	(2) その他	10,785	4,864	5,921
	小計	77,296	39,665	37,630
合計		77,296	39,665	37,630

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。

また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合もあります。

なお、当社グループが有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	74,190千円
退職給付費用	12,434
退職給付の支払額	△3,961
退職給付に係る負債の期末残高	82,663

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	82,663千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	82,663

退職給付に係る負債	82,663
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	82,663

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	12,434千円
----------------	----------

当連結会計年度(自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しております。

また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合もあります。

なお、当社グループが有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	82,663千円
退職給付費用	12,926
退職給付の支払額	△1,009
退職給付に係る負債の期末残高	94,579

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	94,579千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	94,579

退職給付に係る負債	94,579
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	94,579

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	12,926千円
----------------	----------

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	4,503千円	9,865千円
研究開発費	251,396	195,459
一括償却資産	7,804	11,698
賞与引当金	31,098	34,506
退職給付に係る負債	25,360	29,016
その他	38,527	59,750
繰延税金資産小計	358,691	340,297
評価性引当額	△36,881	△49,518
繰延税金資産合計	321,809	290,778
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△14,136	△11,402
繰延税金負債合計	△14,136	△11,402
繰延税金資産の純額	307,672	279,376

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
流動資産－繰延税金資産	41,566千円	59,812千円
固定資産－繰延税金資産	266,106	219,563

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当連結会計年度 (平成31年1月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果	30.9%
(調整)	会計適用後の法人税等の	
交際費等永久に損金に算入されない項目	負担率との差異は、税金	1.7
住民税均等割	等調整前当期純損失を計	0.4
評価性引当額	上しているため記載して	3.0
税率変更による差異	おりません。	0.5
その他		1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率		37.5

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

当社グループの事業は、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)

当社グループの事業は、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)

1. 製品およびサービスごとの情報

当社グループの事業は、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略して
おります。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	合計
1,173,002	2,178,203	266	3,351,473

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

その他・・・・・・欧州、アジア

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、
記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
2K Sports, Inc.	2,091,128	デジタルコンテンツ事業
株SANKYO	438,400	デジタルコンテンツ事業
株バンダイナムコエンター テインメント	279,154	デジタルコンテンツ事業

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

1. 製品およびサービスごとの情報

当社グループの事業は、デジタルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	合計
1,609,896	2,264,847	3,423	3,878,166

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

その他・・・・・・アジア

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略してしております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
2K Sports, Inc.	2,164,085	デジタルコンテンツ事業
㈱バンダイナムコエンターテインメント	358,593	デジタルコンテンツ事業
㈱SANKYO	341,957	デジタルコンテンツ事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社および主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

前連結会計年度 （自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）		当連結会計年度 （自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）	
1株当たり純資産額	426.07 円	1株当たり純資産額	440.74 円
1株当たり当期純損失金額	2.99 円	1株当たり当期純利益金額	25.41 円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在していないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。	

（注） 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 （自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）	当連結会計年度 （自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額（△）（千円）	△25,852	219,838
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額（△）（千円）	△25,852	219,838
期中平均株式数（株）	8,651,129	8,651,128
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,750,000	4,650,000	0.10	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	2,750,000	4,650,000	—	—

(注) 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	320,409	645,638	2,683,187	3,878,166
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(千円)	△98,829	△212,293	427,244	351,999
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△64,623	△138,311	291,181	219,838
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△7.47	△15.99	33.66	25.41

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△7.47	△8.52	49.65	△8.25

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当事業年度 (平成31年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,537,650	6,709,263
売掛金	298,000	485,122
商品	5,832	5,517
仕掛品	824,166	1,095,458
前払費用	66,070	32,528
繰延税金資産	41,566	59,812
その他	※1 57,487	※1 37,243
流動資産合計	5,830,774	8,424,946
固定資産		
有形固定資産		
建物	24,862	21,383
車両運搬具	0	269
工具、器具及び備品	21,454	15,171
土地	2,514	2,514
有形固定資産合計	48,831	39,339
無形固定資産		
ソフトウェア	16,927	11,677
電話加入権	1,242	1,242
無形固定資産合計	18,169	12,919
投資その他の資産		
投資有価証券	271,386	264,289
関係会社株式	47,999	47,999
長期前払費用	163,823	182,752
繰延税金資産	266,106	219,563
差入保証金	146,980	151,267
その他	18	32
投資その他の資産合計	896,314	865,903
固定資産合計	963,315	918,161
資産合計	6,794,089	9,343,108

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当事業年度 (平成31年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63	597
短期借入金	2,750,000	4,650,000
未払金	※1 261,429	※1 263,964
未払法人税等	24,855	42,905
前受金	421,331	989,288
預り金	803	2,571
賞与引当金	84,368	74,036
その他	3,048	3,020
流動負債合計	3,545,899	6,026,383
固定負債		
退職給付引当金	75,703	86,227
長期未払金	62,200	62,200
その他	250	250
固定負債合計	138,153	148,677
負債合計	3,684,053	6,175,061
純資産の部		
株主資本		
資本金	412,902	412,902
資本剰余金		
資本準備金	423,708	423,708
その他資本剰余金	8,510	8,510
資本剰余金合計	432,218	432,218
利益剰余金		
利益準備金	1,350	1,350
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,969,350	3,033,652
利益剰余金合計	2,970,700	3,035,002
自己株式	△738,303	△738,303
株主資本合計	3,077,517	3,141,819
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	32,518	26,228
評価・換算差額等合計	32,518	26,228
純資産合計	3,110,035	3,168,047
負債純資産合計	6,794,089	9,343,108

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当事業年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
売上高	※1 3,067,288	※1 3,315,338
売上原価	2,047,061	2,338,922
売上総利益	1,020,227	976,416
販売費及び一般管理費	※1, ※2 1,006,163	※1, ※2 826,734
営業利益	14,063	149,681
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	58,143	124,967
受取保険金	34,194	-
その他	※1 6,844	※1 5,174
営業外収益合計	99,182	130,141
営業外費用		
支払利息	1,711	3,770
為替差損	182,467	46,015
その他	331	2
営業外費用合計	184,510	49,788
経常利益又は経常損失(△)	△71,264	230,035
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△71,264	230,035
法人税、住民税及び事業税	22,040	48,190
法人税等調整額	△40,150	31,031
法人税等合計	△18,109	79,221
当期純利益又は当期純損失(△)	△53,154	150,813

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)		当事業年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)	
		金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 労務費	※2	1,411,837	48.7	1,431,464	51.0
II 経費	※3	1,490,161	51.3	1,372,710	49.0
当期総製造費用		2,901,998	100.0	2,804,175	100.0
期首仕掛品棚卸高		329,661		824,166	
計		3,231,659		3,628,341	
他勘定振替高	※4	405,983		207,084	
期末仕掛品棚卸高		824,166		1,095,458	
当期製品製造原価		2,001,510		2,325,799	

(注)

前事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)		当事業年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)	
1. 原価計算の方法 個別原価計算によっております。		1. 原価計算の方法 個別原価計算によっております。	
※2. 労務費の主な内訳		※2. 労務費の主な内訳	
賞与引当金繰入額	80,300千円	賞与引当金繰入額	70,744千円
退職給付費用	10,853	退職給付費用	10,849
※3. 経費の主な内訳		※3. 経費の主な内訳	
外注費	967,528千円	外注費	869,853千円
賃借料	205,314	賃借料	207,510
減価償却費	25,881	減価償却費	23,342
※4. 他勘定振替高の内訳		※4. 他勘定振替高の内訳	
販売費及び一般管理費	405,983千円	販売費及び一般管理費	207,084千円
合計	405,983	合計	207,084

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	412,902	423,708	8,510	432,218	1,350	3,109,016	3,110,366	△738,303
当期変動額								
剰余金の配当						△86,511	△86,511	
当期純損失（△）						△53,154	△53,154	
自己株式の取得								-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	△139,666	△139,666	-
当期末残高	412,902	423,708	8,510	432,218	1,350	2,969,350	2,970,700	△738,303

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	3,217,183	22,452	22,452	3,239,635
当期変動額				
剰余金の配当	△86,511			△86,511
当期純損失（△）	△53,154			△53,154
自己株式の取得	-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		10,066	10,066	10,066
当期変動額合計	△139,666	10,066	10,066	△129,599
当期末残高	3,077,517	32,518	32,518	3,110,035

当事業年度（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	412,902	423,708	8,510	432,218	1,350	2,969,350	2,970,700	△738,303
当期変動額								
剰余金の配当						△86,511	△86,511	
当期純利益						150,813	150,813	
自己株式の取得								△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	64,302	64,302	△0
当期末残高	412,902	423,708	8,510	432,218	1,350	3,033,652	3,035,002	△738,303

	株主資本	評価・換算差額等		純資産合計
	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	3,077,517	32,518	32,518	3,110,035
当期変動額				
剰余金の配当	△86,511			△86,511
当期純利益	150,813			150,813
自己株式の取得	△0			△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）		△6,289	△6,289	△6,289
当期変動額合計	64,301	△6,289	△6,289	58,011
当期末残高	3,141,819	26,228	26,228	3,168,047

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）によっております。

(2) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(3) その他有価証券

① 時価のあるもの

決算日の市場価格等にもとづく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

② 時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

(4) 棚卸資産

① 仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法）によっております。

② 商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法）によっております。

③ 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切り下げの方法）によっております。

(5) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当事業年度末における直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物

8～15年

車両運搬具

6年

工具、器具及び備品

5～20年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア（自社利用）については、社内における利用可能期間（5年）にもとづく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額にもとづき計上しております。

(2) 退職給付引当金

退職給付引当金および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る売上高及び売上原価の計上基準

① 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる受注契約

進行基準（進捗率の見積りは原価比例法）

② その他の受注契約

検収基準

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務（区分表示されたものを除く）

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当事業年度 (平成31年1月31日)
短期金銭債権	1,990千円	2,682千円
短期金銭債務	3,205	2,896

(損益計算書関係)

※1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当事業年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
営業取引による取引高		
売上高	一千円	12,000千円
販売費及び一般管理費	194,863	141,112
営業取引以外の取引による取引高	1,200	1,200

※2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度6%、当事業年度9%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度94%、当事業年度91%であります。

主要な費用および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日)	当事業年度 (自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日)
役員報酬	144,120千円	143,760千円
給料手当	81,957	79,474
賞与引当金繰入額	4,068	3,292
退職給付費用	180	683
広告宣伝費	44,522	57,278
旅費交通費	34,628	38,140
減価償却費	3,927	4,378
研究開発費	405,983	207,084

(有価証券関係)

関係会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は47,999千円、前事業年度の貸借対照表計上額は47,999千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当事業年度 (平成31年1月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	4,503千円	6,023千円
研究開発費	249,389	193,900
一括償却資産	7,914	10,938
賞与引当金	26,069	22,655
退職給付引当金	22,938	26,126
その他	35,051	55,192
繰延税金資産小計	345,867	314,836
評価性引当額	△24,058	△24,058
繰延税金資産合計	321,809	290,778
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△14,136	△11,402
繰延税金負債合計	△14,136	△11,402
繰延税金資産の純額	307,672	279,376

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成30年1月31日)	当事業年度 (平成31年1月31日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と税効果 会計適用後の法人税等の 負担率との差異は、税引 前当期純損失を計上して いるため記載しておりま せん。	30.9%
交際費等永久に損金に算入されない項目		2.6
住民税均等割		0.5
税率変更による差異		0.8
その他		△0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率		34.4

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	24,862	-	-	3,478	21,383	111,239
	車両運搬具	0	1,618	-	1,348	269	12,083
	工具、器具及び備品	21,454	8,969	2	15,250	15,171	448,895
	土地	2,514	-	-	-	2,514	-
	計	48,831	10,587	2	20,078	39,339	572,218
無形固定資産	ソフトウェア	16,927	2,093	-	7,343	11,677	-
	電話加入権	1,242	-	-	-	1,242	-
	計	18,169	2,093	-	7,343	12,919	-

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

工具、器具及び備品 : 電子計算機及び周辺機器 3,469 千円

ソフトウェア : 開発用機材 440 千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	84,368	74,036	84,368	74,036

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

特記事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月1日から1月31日まで
定時株主総会	4月中
基準日	1月31日
剰余金の配当の基準日	7月31日 1月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社のホームページに記載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.yukes.co.jp/
株主に対する特典	毎年1月31日現在の所有株式数100株以上の株主に対して、一律に3,000円相当の当社商品または当社関連商品を贈呈します。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、同法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書
事業年度（第26期）（自 平成29年2月1日 至 平成30年1月31日）平成30年4月26日近畿財務局長に提出。
- (2) 内部統制報告書およびその添付書類
平成30年4月26日近畿財務局長に提出。
- (3) 四半期報告書および確認書
第27期第1四半期（自 平成30年2月1日 至 平成30年4月30日）平成30年6月13日近畿財務局長に提出。
第27期第2四半期（自 平成30年5月1日 至 平成30年7月31日）平成30年9月14日近畿財務局長に提出。
第27期第3四半期（自 平成30年8月1日 至 平成30年10月31日）平成30年12月12日近畿財務局長に提出。
- (4) 臨時報告書
平成30年4月27日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）にもとづく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成31年4月25日

株式会社ユークス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

松尾 雅芳

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

矢倉 幸裕

印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユークスの平成30年2月1日から平成31年1月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ユークス及び連結子会社の平成31年1月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ユークスの平成31年1月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社ユークスが平成31年1月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

当社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年4月25日

株式会社ユークス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

松尾 雅芳

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

矢倉 幸裕

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユークスの平成30年2月1日から平成31年1月31日までの第27期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ユークスの平成31年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成31年4月25日
【会社名】	株式会社ユークス
【英訳名】	YUKE'S Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 谷口 行規
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 品治 康隆
【本店の所在の場所】	堺市堺区戎島町4丁45番地の1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長谷口行規および常務取締役品治康隆は、当社および連結子会社の財務報告に係る内部統制の整備および運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」（企業会計審議会 平成23年3月30日）に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備および運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止または発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当連結会計年度の末日である平成31年1月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備および運用状況の評価することによって、内部統制の有効性に関する評価をいたしました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社および連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性におよぼす影響の重要性は、金額的および質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社2社については、金額的および質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね3分の2に達している事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金および棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業または業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加いたしました。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度末日時点において、当社および連結子会社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成31年4月25日
【会社名】	株式会社ユークス
【英訳名】	YUKE'S Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 谷口 行規
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 品治 康隆
【本店の所在の場所】	堺市堺区戎島町4丁45番地の1
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役谷口行規および最高財務責任者品治康隆は、当社の第27期（自 平成30年2月1日 至 平成31年1月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令にもとづき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。